

令和3年度（2021年度） 第2回熊本市障がい者自立支援協議会

日時 令和3年（2021年）11月26日（金） 14時半～

会場 熊本市役所別館自転車駐車場8階会議室

出席者 園田委員、大関委員、大島委員、谷口委員、永井委員、平田委員、北村委員、森田委員、田尻委員、志田委員、山田委員、松本委員、河添委員、古里委員、野口委員、村上委員、福田委員、古閑委員、多門委員、松村委員、相藤委員、菊池委員

配布資料

【第2回】

（事前送付）

- ・資料1 障がい者自立支援協議会について
- ・資料2 障がい者相談支援センターについて
- ・資料4 「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」の施行について
- ・資料5 児童発達支援センター機能強化事業について
- ・資料6 児童発達支援センター機能強化事業報告
- ・資料7 部会報告資料
- ・資料8 相談支援機能強化員会議報告 ほか
- ・資料9 地域生活支援拠点等の整備について

（当日配布）

- ・資料3 共同生活援助（日中サービス型）の評価の報告について

議事要旨

進行	<p>1 開 会</p> <p>2 事務局挨拶</p> <p>3 委員紹介 *委員名簿をもって代える</p> <p>4 事務局紹介*席次表をもって代える</p>
企画調整班	<p>5 事務局説明</p> <p>資料に基づいて説明</p> <p>資料1 障がい者自立支援協議会について</p>
進行	<p>6 会長選出・副会長指名</p> <p>委員の互選により、相藤委員を会長、菊池委員を副会長とする。</p>
事務局 企画調整班 自立支援班	<p>7 議事</p> <p>(1) 報告案件</p> <p>資料に基づいて説明</p> <p>資料2 障がい者相談支援センターについて</p> <p>資料3 共同生活援助（日中サービス型）の評価の報告について</p> <p>資料4 「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」の施行について</p>
相藤会長	<p>ありがとうございました。委員の皆様からご質問などはございませんか。</p>
松村委員	<p>自閉スペクトラム症協会の松村です。2点聞きたい。</p> <p>1、相談支援センターの活動について。地域への理解啓発とあったが、センター同士での連携もあるとのこと、そこに我々のような親の会・当事者会をいれていただくことは可能か。</p> <p>2、日中支援型の指定が今年1か所おりたということだが、差し支えなければどこの事業所かお聞きしたい。県内の状況も分かればお聞きしたい。</p>
企画調整班	<p>1については、ぜひ協力をお願いしたい。</p>
自立支援班	<p>2については、東区のファミリンという事業所。定員8名でサービスを行っている。県内の状況については即答ができない。</p>
平田委員	<p>当事者会ではないが、車いす講習を他センターと協力して行った。意外と車椅子の在庫がどこもない。そこで福祉用具の事業所に相談したところ、その事業所に車いすバスケのプレーヤー経験がある当事者の方がおられ、その方に協力を依頼して研修をしたことがある。</p>
大関委員	<p>当センターでも小学校～大学への研修を行っている。当事者の職員、実習生との研修はリアリティがあり、奥が深い研修になったと思うので今後も協力して行っていきたい。</p>
相藤会長	<p>情報提供だが、県の身体障害者福祉センターでは用具の貸出等もやっているの、利用されてはいかがか。</p>
谷口委員	<p>東区では青空と協力して研修を行っている。特に発達障がいについてはりら・く</p>

	まカフェなど、当事者、親の方々が入った形での支援を行っている。
北村委員	当センターでもピアの方に入っていていただいで研修を行いたいと考えている。申し出ありがとうございます。
相藤会長	基幹センターについて、ネットワークを作っていられると思うが、センター同士の横のつながりはどうか。
企画調整班	毎月機能強化員を集めた会議を行っている。それぞれの持っている困難事例について共有し対応しているところ。
相藤会長	資料の(2)-③に各部会に参加するとあるが、この部会から困難事例の報告が上がってきたことがない。ぜひ機能させていただきたい。
自立支援班	先ほどの松村委員の質問、日中サービス支援型の指定は県内に4事業所ある。
企画調整班	児童発達支援センター機能強化事業について 資料に基づいて報告 資料5 児童発達支援センター機能強化事業
山田委員 松本委員	資料に基づいて報告 資料6 令和2年度熊本市児童発達支援センター機能強化事業報告
相藤会長	以上、機能強化事業についての報告をいただきましたが、委員の皆様からご質問などはございませんか。 (2) 各部会報告 それでは子ども部会からの報告をお願いします。
山田委員	資料に基づいて説明 資料7 各部会報告 p 2 ライフステージごとに3つの班に分かれて活動している。
志田委員	資料に基づいて説明 資料7 各部会報告 p 3 ミニ研修を行ったうえで班活動を実施している。11月の研修では、作業療法士会から作業療法士を派遣していただき、高次脳機能障害について講義していただいた。
平田委員	資料に基づいて説明 資料7 各部会報告 p 5 運営委員会と別に、コアメンバー会議を設置し、研修等の企画を行っている。その時々求められることを研修として実施している。
谷口委員	資料に基づいて説明 資料7 各部会報告 p 7 全体部会と区部会とグループ分けをして実施している。それぞれの状況に応じて実施しており、今後は追跡調査を行わせていただく予定。
相藤会長	ありがとうございました。委員の皆様からご質問などはございませんか。事前に

	資料を確認したが、部会で出された困難事例を本会議にあげて、検討することができたらと思う。
古里委員	就労部会に参加している。企業就労班で一般就労を目指して取り組みをしている。障害者雇用促進ガイドブックについて、現在の情報に書き換える作業を行っており、今年度中の完成を目指している。
村上委員	就労部会でお悩み解決班に参加している。昨年度はコロナでなかなか開催ができなかったため、今年度は開催の確保を第一にやってきた。就労部会の特徴は様々な機関が集まっているところ。お悩み解決班では、金銭管理に関する課題があがっている。それぞれの機関の苦手分野を補いながらやっている。
谷口委員	子ども部会B班の学齢期に参加している。学齢期のテーマとして親御さんたちの不安感が大きいと認識している。現状把握のためアンケートを行う、研修会をする、どのような手順で入学するのかについて説明をするなど、様々の内容が出てきている。
大島委員	相談支援部会に参加している。企画が難しいと感じている。相談員もリモート環境が整わない事業所もある。9月に事例検討を実施したが、リモートでの難しさを感じた。今後は、地域課題をどのように抽出したらいいか悩んでいる。みなさんと力を合わせてやっていきたい。
大関委員	精神障がい者地域移行支援部会に参加している。精神病院の出入りがコロナで厳しくなり、活動が難しくなってきたため巡回相談を行うことにした。入院をしている方に地域で待っている人がいることや地域移行というものがあることを広めていきたい。
相藤会長	(3) 障がい者相談支援センターからの報告 センターからの報告をお願いします。
園田委員	資料に基づいて説明 資料8 相談支援機能強化員会議報告 ほか
相藤会長	委員の皆様からご質問などはございませんか。 (4) 意見交換 事務局より説明をお願いします。
企画調整班	資料に基づいて説明 資料9 地域生活支援拠点等の整備について *実際の状況や、施設の確保に関するアイデアについて、ご意見を伺いたい。 まず、①相談、②地域の体制づくりについて相談支援センターから現状を教えてください。
森田委員	各センターに地域支援員を配置することで、ささえりあや関係機関と顔の見える関係作りができてきたと考える。それに伴い、ささえりあや民生委員からの相談も増えてきている。ささえりあが開催している認知症サポーター研修にも参加

	し、障がいについての理解啓発活動を行っている。
相藤会長	③緊急時の受け入れ・対応、④体験の機会・場の確保についていかがか。
松村委員	<p>日中サービス支援型のGHについて今年度1件、前年度1件という整備内容は設置ペースとして間に合っているのか、他の委員さんに体感としてどう思っているのか聞きたい。GHの整備について現実的に見通しが立っているのか。どう考えているのか。</p> <p>提案ですが、お答えがすぐ出ないようであれば、GHについて話せる場を作ってはどうか。今このように聞いて、すぐ答えられる状況になっているべきだと思う。現状の把握ができていないのであれば、そのことを中心にしたチームをつくってはいかがか。どうしたら障がいのある方や入居待機者、その家族が安心して地域で暮らせるのかを考える場所を作ったらどうかという提案です。</p>
谷口委員	福祉サービスというのは一つの手段に過ぎないと感じる。いわゆる政策、福祉サービスのところを話していたが、もっと広い議論が必要ではないかと思う。
相藤会長	GHの空き状況や今後の見通しについて考えるチームを作ってはどうか、という意見でしたがいかがか。
大関委員	中央区の視点だが、母体が精神病院なので知的・精神障がいの方も多し。個人的にはGHではなく、関係ができていない不動産にお願いすることも多い。インフォーマルな部分、不動産関係の方もこういう場に来ていただいたらよいのではないか。
松村委員	確かに、不動産関係者に来ていただいたらよいと思う。障がいのある方と接することのない方々も交えながら話し、本当に地域で暮らすことについて考えることが必要である。これを契機にざっくばらんに話し合える場ができればと思う。
大島委員	松村委員の意見を聞いて、緊急時に受け入れをお願いできるのはGHだけでなく、民間のホテルや宿泊施設を持っているところにも協力依頼ができるのではないかと。また一人で過ごすことができない人にヘルパーを派遣する仕組みも必要。民間に協力いただくと、地域で生活する場づくりにもなるし、障がいのある方もない方も一緒に暮らすという啓発になるのではないかと。
古里委員	学校卒業後、施設入所を望まれる方もいる。数が豊富であるに越したことはないが、それぞれの法人の運営もあると思うため、空き部屋が多くあればいいということではないだろう。民間の不動産の空き部屋の活用ができればいいと思う。
相藤会長	GHの空き状況を把握するツールはあるか。
大島委員	K P 5 0 0 0 が情報ツールを作っている。しかし、空き状況の更新がされていないところがあり、その点については検討中。
企画調整班	ツール自体はできている。ただ古い情報のまま更新がされていないのが課題。地域支援員会議でも話題にあがっている。相談支援センターと協力して進めていきたい。

相藤会長	まさしくソーシャルアクションだと思うので進めていただきたい。様々な情報を当事者も持っているので、そういう情報が吸い上げられるといいのではないか。また、以前災害時にシェルターを作ってほしいという意見があったが、病院や空き部屋等を活用できたらいいのではないか。
友枝課長	GHの意見がございました。GHの設置については障害福祉計画をもとに今後も増やしていく予定。GHは毎年、施設整備も募集している。課題の一つとしては、GHは建設費用が多くかかること。 民間の活用とあったが、民間を活用となるとベッド代を毎日払うことになるため、その他いいアイデアがあったら教えていただきたい。
事務局	3 事務局連絡 <u>次回は2.18(金)の予定。</u> 4 閉会